

## 第 29 回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期： 2011 年 7 月 28 日(木)～7 月 30 日(土)  
会 場： 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)  
会 長： 大阪大学大学院医学系研究科小児科学  
教授 大 菌 恵一  
ホームページ： <http://www2.convention.co.jp/29jsbmr/>  
演題募集期間： 2011 年 1 月 20 日(木)～4 月 3 日(日)

会長挨拶： 第 29 回日本骨代謝学会学術集会を開催するにあたり

大阪大学大学院医学系研究科小児科学  
大 菌 恵一

今般、平成 23 年 7 月 28 日(木)～30 日(土)に大阪国際会議場で開催されます第 29 回日本骨代謝学会の大会長を務めさせていただくこととなりました。若輩ですが、日本の骨代謝研究者が一堂に会する有意義な学術集会となるよう努力する所存ですので、よろしく願いいたします。

日本骨代謝学会(JSBMR)は、骨代謝分野における最先端の情報を、日本のみならず、世界に向けて発信してきました。骨代謝学は、臨床的には、内科・整形外科・婦人科・歯科・小児科等多岐にわたり、基礎研究としては、生化学・分子生物学・細胞生物学・内分泌学・遺伝学等を包括する学際的かつ統合的分野として発展してきました。また、骨代謝学分野は、基礎研究における成果が骨粗鬆症の治療薬として開発されることにつながり、橋渡し研究が盛んに行われています。骨代謝学は、歴史を重ね、成熟した学問分野となってきていますが、依然、成長率は高く保たれています。このことを念頭において、今学会のサブテーマを「進歩し続ける骨代謝学」としました。ポスターも、直接的な骨のイメージは避けて、骨格と未来を感じさせるロボットのキャラクターとしました。さらに、私は小児科医ですので、先天的な骨疾患や代謝性骨疾患研究の紹介にも注力したいと思います。3 年前本学会で、米国の Kaplan 博士が患者さんの前で行った FOP(Fibrodysplasia ossificans progressiva)に関する講演の感動は忘れられません。今回も、現在北米で治験が進行中の骨への親和性を高めたアルカリフォスファターゼによる酵素補充療法に関する講演を Whyte 博士に依頼しており、低フォスファターゼ症の患者の会の会員の招待を準備中であります。また、2011 年の 9 月にはオーストラリア・ニュージーランド骨代謝学会(ANZBMS)が、一部 JSBMR との共同で行われます。第 29 回日本骨代謝学会の一般演題応募のうち、ANZBMS/JSBMR 合同ミーティングでの発表を希望される中から選定して、トラベルグラントを授与する予定ですので、奮ってご応募ください。

骨代謝学会と言えば、暑い夏が思い浮かびます。来年の夏、暑い大阪で、熱い学会が開催できるよう、皆様の積極的な参加をどうぞよろしくお願いいたします。

\* 新しい情報、学会内容はホームページ(<http://www2.convention.co.jp/29jsbmr/>)に随時掲載、更新いたします。

# 2010年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2010年4月～2010年7月末)

## ■2010年度 第1回理事会議事録■

日時: 2010年5月28日(金) 15時00分～17時00分

会場: 東京国際フォーラム 4階 G410会議室

議事:

### 2009年度第5回理事会議事録(案)の承認

2010年3月13日に開催された2009年度第5回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、宗圓理事、萩野理事が担当することとした。

### <報告事項>

#### 1. 庶務報告

山口理事より、2010年4月30日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、了承した。なお、ファイザー(株)より賛助会員退会の申請があった旨、報告があり、関係の担当者へ、会員継続を依頼することとした。

#### 2. 各種委員会報告

##### 1)あり方委員会

加藤委員長より、5月29日(土)に委員会を開催し、賛助企業の会員を2名程度追加する計画について、公募方法を協議する予定である旨、報告があった。

##### 2)国際渉外委員会

福本委員長より、同委員会の活動について、主に以下の報告があった。

・ECTSよりInternational Affiliated Societyへの参画依頼を承諾し、Affiliated Society Forum Lunchへ、松本副理事長が代表として出席する。

・2011年9月4日～7日にANZBMS-JSBMR Joint Meeting in 2011がGold Coastで開催される予定である。

・BMS 2013の際にABMS(Asian Bone Mineral Society)の組織固めを行う予定であるが、Asia諸国の中には財政的に厳しい国もあるため、協賛企業の状況をみながら進める予定である。

##### 3)JBMM編集委員会

清野委員長より、JBMMの投稿状況、発行状況等について、主に以下の報告があった。

・採択率は、4月30日現在で、2009年投稿論文:34.7%、2008年度:35.7%、2007年度:45.5%となっている。

・投稿受付からFinal Decisionまでの平均査読日数は、採択の場合73.6日、不採択の場合31日となっている。

・2010年度4月30日時点の国別投稿状況について、日本からの投稿は25%となっている。

・投稿規程にConflict of Interestの記載を追加する予定である。

・ICE2010骨代謝サテライトシンポジウムの海外特別講演者3名よりReview執筆の承諾を得た。

・Springer社のPublisher's Reportによると、JBMMで68,493件のダウンロード件数があった。

なお、清野委員長より、医学をはじめとする科学ジャーナ

ルにおける倫理上の問題について編集者間が情報交換するコミュニティ、Committee Publication Ethics(COPE)の入会についてシュプリンガー社より提案があった旨、報告があり、了承した。また、電子ジャーナルの長期保管について、シュプリンガー社が進めている、国立図書館や非公的機関のDigital preservation Initiatives等に参加する措置の覚書(案)の提示があり、了承した。

##### 4)臨床プログラム推進委員会

杉本委員長より、岡崎委員による「成人における血清25(OH)D基準値設定」の論文が受理された旨、報告があった。

##### 5)骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会

遠藤委員長より、QOL評価質問表2000年度版については妥当性検証作業が終了し、短縮版作成に向けて、データ採取、集計・解析作業を行っている旨、報告があった。

##### 6)骨密度基準値設定委員会:報告事項なし

##### 7)広報委員会

萩野委員長より、一般向けのページ作成および掲載状況について報告があった。なお、会員専用ページ構築の進捗状況について事務局より説明があった。会員専用ページにおける会員名簿掲載については、会員専用ページ内の公開であり、かつ氏名と所属機関のみの一覧であることから、会員各位へ掲載可否を問う必要はない旨、了承した。

##### 8)ビスフォスフォネート顎骨壊死検討委員会(米田委員長)

米田理事長より、BRONJ論文の和文簡略版について、各社より243,150部の申込があった旨、報告があった。また、和文全訳版の出版について、賛助企業各社へ購入案内を送付したところ、5月25日時点で520部の応募があった旨、説明があった。

BRONJポジション・ペーパーの転載依頼の対応について、4月下旬に引用元の表記や転載使用料について明記した日本骨粗鬆症学会との覚書(案)を審議するメール理事会を行った旨の報告があった。同覚書(案)について検討した結果、全国の医師会や歯科医師会より予想以上の転載依頼が届いている状況を鑑み、非営利団体の転載料については無料の取り扱いとする旨、了承した。

##### 9)椎体骨折評価委員会

宗圓理事より、3月6日に第3回委員会を開催し、新鮮骨折の診断についてMR所見を導入すること、ならびにSQ法による評価を導入することについて了承した旨、報告があった。また、他学会との整合性をとるために、日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本放射線医学会からも委員選出を依頼することとなった旨、説明があった。

##### 10)ステロイド性骨粗鬆症管理と治療のガイドライン改訂委員会

宗圓理事より、現行のガイドラインの改定について、今年の8月にACRが新改訂基準を出す予定であることから、その原案と、PTHの承認を待って、委員会を開催する予定である旨、報告があった。

### 3. 第28回日本骨代謝学会準備状況について

太田会長より、第28回学術集会の一般演題について210題の応募があった旨、報告があった。続いて、関連学会の取得可能単位、日程および特別講演、シンポジウムの主要プログラムについて、資料に基づき、説明があった。

4. 第29回日本骨代謝学会準備状況について

大藪会長より、第29回学術集会について、2011年7月28日(木)～30日(土)に大阪国際会議場で開催する旨、報告があった。

5. 第14回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)骨代謝サテライトシンポジウムについて

大藪会長より、第14回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)骨代謝サテライトシンポジウムについて、2010年3月31日(水)に大阪国際会議場で開催し、海外より4名、国内より4名を招聘し盛会裡に終了した旨、報告があった。また、参加者102名のうち53名が学生であった旨、補足説明があった。

6. IBMS2013開催について

野田会長より、IBMS2013準備状況について、IBMSより送付されたAgreement letterに基づき、報告があった。なお、プログラム委員長を加藤理事に依頼したい旨、提案があり、了承した。

## &lt;審議事項&gt;

1. 2009年度収支決算報告書について

水沼理事より、2009年度収支決算報告(案)について主に以下の報告があり承認した。

## &lt;一般会計&gt;

- ・会費収入は正会員、学生会員が会員数減少により、予算より減収となった。
- ・科研費補助金について530万円の採択があった。
- ・雑収入について、JBMM通常許諾料の他に骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン収入等があり、予算より大幅な増収となった。
- ・会誌刊行費について、BRONJ和文簡略版およびJBMM Invited Reviewのカラーページ代等により、約243万円増額した。
- ・単年度の収支は、960,717円の黒字決算であった。

2. 2009年度会計監査について

太田監事より、清野、太田両監事が、それぞれ会計監査を行ない、帳簿、伝票および銀行口座残高など資料を確認した結果、経理は適正に執行されていることが報告された。

3. 2010年度予算(案)について

水沼理事より、2010年度予算(案)について、主に以下の報告があり承認した。

- ・会費収入については会員納入率を正会員92%、学生会員80%として計上した。
- ・科学研究費補助金について、日本学術振興会より、510万円の交付内定があった。
- ・HP・メールリスト費について、会員専用ページ作成費(10万円)および管理費(10万円)を合わせた20万円を増額し

た。

単年度収支では、718,250万円の赤字予算となるが、会費の増収と経費の節減に努め、健全な財政となるよう、検討することとした。

なお、会員数が上昇傾向ではないことから、財政面でも影響を受けており、抜本的な対策が必要である事について協議した結果、若手会員への教育も含めた魅力的な企画の開催(補助金申請方法、論文不正が起きたときの対処法、臨床試験での倫理の問題、論文の書き方など)など、会員獲得を検討する委員会を立ち上げてはどうかとの意見があった。また、特別会計に計上している学術集会上納金について、一般会計に戻してはどうかとの提案があり、しかるべき会計処理について事務局で確認することとした。

4. 学術賞・研究奨励賞・優秀演題賞・JBMM論文賞の選考について

米田理事長より、各賞応募者の提示があり、事前審査および本理事会での協議の結果、下記の候補者を今年度の受賞とする旨、承認した。

## 【学術賞】

## &lt;内科系&gt;

小竹 茂 (東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター)

## &lt;内科系(疫学)&gt;

伊木 雅之 (近畿大学医学部公衆衛生学講座)

## &lt;外科系&gt;

秋山 治彦 (京都大学医学部整形外科学講座)

## 【研究奨励賞】

## &lt;基礎系&gt;

今井 祐記 (東京大学分子細胞生物学研究所)

## 【優秀演題賞】

## &lt;基礎系&gt;

近藤 剛史 (東京大学分子細胞生物学研究所核内情報学分野)

## &lt;基礎系&gt;

宮内 知彦 (昭和大学歯学部口腔生化学教室)

## &lt;臨床系&gt;

斎藤 琢 (東京大学医学部ティッシュエンジニアリング部)

## &lt;臨床系&gt;

谷口 優樹 (東京大学医学部整形外科)

## 【JBMM論文賞】

平尾 眞 (大阪大学医学部整形外科)

5. 学会賞の選考について

米田理事長より、今年度の学会賞選考について、推薦が無か

ったため今年度は該当者無しとする旨の提案があり、承認した。

## ■2010年度 第2回理事会議事録■

日時: 2010年7月20日(火) 16時00分~18時00分

会場: 京王プラザホテル 本館43階 コメット

議事:

### 2010年度第1回理事会議事録(案)の承認

2010年5月28日に開催された2010年度第1回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、山口理事、井樋理事が担当することとした。

<報告事項>

#### 1. 庶務報告

井樋理事より、2010年6月30日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、了承した。

#### 2. 会計報告

杉本理事より、2010年6月30日時点での会計中間報告があり、承認した。

#### 3. 各種委員会報告

##### 1)あり方委員会

加藤委員長より、主に以下の報告があり、了承した。

- ・あり方委員会の任期は3年とする。
- ・賛助企業出身の委員について公募を行い、以下の3名を新委員として選出した。(敬称略)  
旭化成ファーマ(株) 西村 勝美  
中外製薬(株) 森下 芳臣  
日本イーライリリー(株) 山本 尚功
- ・賛助企業出身の委員の任期は、企業内での人事異動を考慮し1年とする。(再任可)。
- ・新委員については、就任の条件として正会員としての本会への入会を義務付ける。
- ・7月中にメール委員会を開催し、新委員の承認を得る。

なお、加藤委員長より、委員会の議論として以下4点の提案があり、了承した。

1. 学術集会において、若手会員向けの教育を趣旨としたプログラムを実施する(ex.論文の書き方や補助金の申請法等)。
2. 若手シンポジウム企画を今年度より3年間継続する。
3. 若手への利益相反、倫理についての教育を行う。
4. 学会の国際化のために、2011年の学術集会より、口頭発表・シンポジウムのスライドは英語表記とする。

また、松本副理事長より、学術集会演題の日英併記について提案があり、継続して検討することとした。

##### 2)国際渉外委員会

福本委員長より、主に以下の報告があり、了承した。

- ・2011年IBMS-ECTS meetingにおいて、2009年3月にシドニーで初めて開催したAsianセッションの第2回目を開催する予定である。
- ・Asian Sessionを中心とした、アジア地域の組織を作る構想については、予算上の面から、協賛企業と相談の上、検討する。
- ・ANZBMSより、2011年ANZBMS/JSBMR meetingのプログラム委員1名の選出依頼があった。委員会では大菌第29回会長を推薦したい。
- ・IBMSより、BoneKEyのPerspective/Commentaryの和訳原稿を提供するため、ホームページに掲載してほしい旨の依頼があった。

松本副理事長より、ECTSのAffiliated Society Forum Lunchについて報告があった。

##### 3)JBMM編集委員会

清野委員長より、JBMMの投稿状況、発行状況等について、主に以下の報告があった。

- ・採択率は、6月30日現在で、2010年投稿論文:35.7%、2008年度:36.0%、2007年度:45.5%である。
  - ・2010年度6月30日時点の国別投稿状況について、日本から29%、海外からは71%であった。
  - ・例年、学術集会会長より特別講演者へReview執筆を依頼しているが、大会終了後のフォローが必要である。
  - ・5月26日時点におけるフルテキストダウンロード回数について、28巻4号に掲載されたビスフォスフォネート製剤関連顎骨壊死のPerspectiveが699回の第1位を記録した。
- なお、清野委員長より、2009年度のインパクト・ファクター値は1.894であった旨、報告があった。主な要因は論文数が前年度より28%増加したためであり、BoneやJBMRなど関連学会の雑誌も同様に前年度より値が低くなっている旨、説明があった。

##### 4)臨床プログラム推進委員会

杉本委員長より、岡崎委員による「成人における血清25(OH)D基準値設定」の論文がJBMMに採択され、オンライン掲載の時点で、学会ホームページへ掲載した旨の報告があった。また、本委員会の企画シンポジウムとして「Vitamin D insufficiency と骨代謝」が取り上げられる旨、説明があった。

松本副理事長より、25D測定の保健適用認可申請において、協和メディックスより小児の欠乏症を優先したい旨の連絡を受けた旨、報告があった。

##### 5)骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会:報告事項なし

##### 6)骨密度基準値設定委員会:報告事項なし

##### 7)広報委員会

萩野委員長より、学会ホームページについて、一般の方向けの骨代謝解説記事の充実および原稿執筆状況について報告があった。なお、会員専用ページ構築の進捗について説明があった。

## 8) BP 製剤関連顎骨壊死検討委員会

米田理事長より、和文完全版について、6月30日現在で、賛助企業各社より3,627部の申込があった旨、報告があった。和文完全版については、ビスフォスフォネート製剤の特徴や有用性など、原典のJBMM論文ではない部分も取り上げている旨、補足説明があった。

## 9) 椎体骨折評価委員会

宗圓理事より、7月23日に委員会を開催する予定である旨、報告があった。また、椎体骨折の評価を決定するに際し、他の関連学会との整合性をとるために、日本整形外科学会をはじめ、日本脊椎脊髄病学会、日本放射線医学会からも委員選出を依頼することとなった旨、説明があった。

## 10) ステロイド性骨粗鬆症管理と治療のガイドライン改訂委員会

宗圓理事より、現行のガイドラインの改定について、8月にACRが新改訂基準を出す予定であることから、その原案ならびにPTHの承認を経た後に、委員会を開催する予定である旨、報告があった。

## 4. 第29回日本骨代謝学会準備状況について

大藪会長より、第29回学術集会について、2011年7月28日(木)～30日(土)に大阪国際会議場で開催する旨、報告があった。

## 5. 第30回日本骨代謝学会準備状況について

加藤会長より、第30回学術集会について、2012年7月19日(木)～21日(土)に京王プラザホテルで開催する旨、報告があった。

## 6. 功労評議員の推戴について

米田理事長より、2010年4月以降に資格が認められる下記の功労評議員候補者2名について提示があり、全会一致で承認した。

高槻 健介	評議員
林 泰史	評議員

## 7. 名誉会員の推戴について

米田理事長より、清野佳紀監事、ならびに乗松尋道元理事長を名誉会員に推戴したい旨の提案があり、全会一致で承認した。

## 8. 学会誌掲載論文の転載依頼について

米田理事長より、前回理事会以降に依頼のあった、「原発性骨粗鬆症の診断基準」の転載許諾依頼2件について報告があり、承認した。

## &lt; 審議事項 &gt;

## 1. 日本骨代謝学会尾形賞創設について

米田理事長より、中外製薬株式会社より、故尾形悦郎先生を記念した賞の設置について提案があった旨、報告があり、協議の結果、承認した。選考基準や受賞講演の有無等に関し

ては、中外製薬社と協議の上、決定することとなった。

## 2. IBMS2013 について

米田理事長より、IBMS2013 から特別講演演者の推薦依頼があった旨の報告があり、野田会長と相談の上、決定することとした。

## 3. BP 製剤顎骨壊死ポジションペーパー改訂文書について

米田理事長より、厚生労働省医薬養局より、6月1日付けで、ビスフォスフォネート系薬剤の使用上の添付文書について、関連機関各署より意見が挙がっている旨の報告があった。また、7月9日に日本歯科医師会で開催された、「第1回ビスフォスフォネート系薬剤投与患者への歯科治療対応検討会」に細井孝之先生、林泰史先生が出席した旨、説明があった。協議した結果、原稿の添付文書の改訂(案)について本会と日本骨粗鬆症学会が中心となり、厚生労働省へ要望書を提示することとなった。具体的な改訂作業については、杉本理事、宗圓理事、萩野理事が策定する旨、了承した。

## 4. その他

米田理事長より、2010年度評議員会次第の確認があり、承認した。また、前回理事会で提案のあった、会員獲得を検討する委員会の立ち上げについて協議した結果、新規に委員会を設置する旨、了承した。また、リウマチ学会で、専門医制度導入等により会員獲得政策の実績がある田中良哉理事を委員長に推薦してはどうかとの提案があり、全会一致で承認した。

## ■ 各種委員会 ■

## &lt; 第28回JBMM編集委員会 &gt;

日時：2010年3月13日(土)14:15～15:00  
場所：千里ライフサイエンスセンタービル 6階 603

清野佳紀委員長が資料に基づき司会進行を行い、以下の事項を承認した。

## 1. 投稿状況

2010年3月2日現在、44編の投稿があり、昨年より掲載論文が3割強増加している。2009年では日本が26.1%でトップ、次に中国が17.4%、USAが9.5%の投稿があった。地域別では日本を含むオセアニア53%、EU21.5%、北米10.5%、中近東8%、南米4%、アフリカ3%である。

2009年度学術集会に招聘したDr.Lynda Bonewald、Dr.David G.Roodman、学術賞受賞論文、鄭雄一先生、伊東昌子先生はレビュー執筆予定である。2007年以前の受賞記念診執筆論文は時間が経過しすぎたので、本人が執筆意思を示している以外は失効することとする。

## 2. 発行準備状況

28巻2号を3月に予定どおり発行し、3月16日(火)に発送した。

28 巻 3 号以降掲載論文は 47 論文が決定しており、オンライン出版後、順次、掲載する予定である。

Associate editor 交替の件

福永編集委員より Associate Editor 交代の申し出があった。福永先生より推薦された曾根照喜先生(川崎医科大学核医学講座教授)を後任として審議し、決定した。この後の理事会で承認されるよう議題とする。

### 3. 転載許諾について

JBMM に掲載した Perspectives (著者: 米田理事長、他) より抜粋して、和文ハンドブックを制作することについて、シュプリンガー・ジャパンへ転載許可の問い合わせをした。ガイドラインについては日本骨代謝学会が著作権を管理しており、今回問い合わせた論文もこれに該当するので、日本骨代謝学会が許諾することになる。

### 4. JBMM 誌へ掲載する表記および投稿規程記載について (COI、見出し)

投稿規程にある見出しについて、Introduction, Material and methods, Results, Discussion に統一することを確認した。

Conflict of Interest を投稿規程に記載することとし、米田編集委員に原案を作成するよう依頼した。

### 5. レフェリー除外およびレフェリー指定について

レフェリーは Associate editor が適任者を選ぶこととする。著者が指定してきたレフェリーについては特に配慮しないが、Associate editor が適任と考え、依頼しても構わない。競合研究者をレフェリーとすることを避けたいという著者からの申し出については、Associate editor レフェリー依頼時に考慮することとする。そのため、Editorial manager に opposed 機能を付加することとした。opposed 機能は view submission を開いて 1 ページ目に記載される。

### 6. プロモーションについて

シュプリンガー・ジャパンより昨年および本年の計画を示された。

なお、IOF Regionals - 1st Asia-Pacific Osteoporosis Meeting Singapore, 2010 の会議広告を掲載するならば、本誌のプロモーションを会議開催時に行ってもらえる。協議の結果、会告を掲載することとした。

### 7. その他

・Dr. Gregory Mundy の Condolence を米田理事長が執筆することとなった。

## < 第 29 回 JBMM 編集委員会 >

日 時: 2010 年 5 月 28 日 (金) 14:15~15:00

場 所: 東京国際フォーラム ガラス棟 4 階 G410 号室 (長)

清野佳紀委員長が資料に基づき司会進行を行い、以下の事項を承認した。

### < 報告事項 >

#### 1. Publisher's Report

シュプリンガー・ジャパンより、JBMM の出版レポートについて、主に以下の報告があった。

- ・2009 年の 1 月~12 月までの掲載論文数は 120 編であり、2008 年の 94 件と比較して 28.7%増加した。
  - ・投稿者の国別内訳は、日本、中国、アメリカが主となり全体の 53.8%を占めている。
  - ・2009 年における採択からオンラインファースト公開までの平均所要日数は約 41 日となり、昨年より 30.5%縮まった。
  - ・2009 年におけるフルテキストのダウンロード総回数は 69,893 件となり、2008 年の 61,599 件より 13.5%増加した。
  - ・国別のフルテキストダウンロード依頼の地域別内訳は、主にアジア太平洋 37%、ヨーロッパ 33%、北米 24%となっている。
  - ・2009 年のインパクト・ファクター予測値は 1.768 と若干さがる見込みをたてている。主な要因は、掲載論文数が増えたことにより、計算式の分母が増えたことと思われる。
- 論文タイプ別の平均引用回数では、Review Article と Special Report が他と比べて多い。

#### 2. 投稿状況

清野編集委員長より、投稿状況について主に以下の報告があった。

- ・2009 年 1 月以降の新規投稿は 96 件となり、論文種類の内訳は、Invited Review 1 件、Review Article 1 件、Original Article 72 件、Case Report 11 件、Short Communication 11 件であった。
- ・国別投稿状況としては、国内 25%、海外 75%となっている。

#### 3. 発行状況

清野編集委員長より、28 巻 1 号~3 号の発行状況、掲載論文数、ならびに掲載論文の国内外の内訳について報告があった。

### < 審議事項 >

#### 1. Committee on Publication Ethics (COPE) の会員登録について

シュプリンガー・ジャパン (株) 大仲様より、標記、医学をはじめとする国内外 3,500 誌以上が登録しているコミュニティについて説明があった。審議した結果、登録費が無料であることや倫理的な問題等の扱いについて他誌での情報が入ることから、加入することとした。

#### 2. 電子ジャーナル長期保管イニシアティブ (Springer) への参加について

シュプリンガー・ジャパン (株) 田谷様より、電子ジャーナルの長期保管について、同社が現在オランダ国立図書館およびドイツ国立図書館などの公的機関によるものや非公的機関による保管に参加し、出版社に万が一不測の事態が起きた場合も対応できるよう進めている旨、報告があり、保存に関わる覚書の締結について提案があった。審議した結果、覚書の締結について承認した。

#### 3. IOF 会議の広告掲載について

シュプリンガー・ジャパン (株) 田谷様より、IOF Regionals - 1st Asia-Pacific Osteoporosis Meeting Singapore, 2010 の会議で JBMM 誌のプロモーションを行っていただけることの交換条件として、IOF より同会議の広告を JBMM に掲載してほしい旨の依頼があった旨、報告があり、了承した

#### 4. 投稿規程改訂 (Conflict of Interest) について

米田理事長より、投稿規程に追加する Conflict of Interest の

原案について説明があった。協議した結果、原案を承認した。

#### 5. JBMM 論文賞選考について

第 25 巻～第 27 巻に掲載された論文の中で審議した結果、以下の論文を受賞とする旨、了承した。

「Oxygen tension is an important mediator of the transformation of osteoblasts to osteocytes」

JBMM Vol.25 (5)266-276

平尾 眞大阪大学大学院医学系研究科器管制御外科学

#### <第 30 回 JBMM 編集委員会>

日 時: 2010 年 7 月 20 日(火) 15:15～16:00

場 所: 京王プラザホテル 43 階 コメット

#### <報告・審議事項>

##### 1. 投稿状況

清野編集委員長より、投稿状況について主に以下の報告があった。

- ・2010 年 1 月以降の新規投稿は 141 件となり、論文種類の内訳は、Invited Review 2 件、Review Article 2 件、Original Article 108 件、Case Report 14 件、Short Communication 14 件であった。
- ・新規投稿数は例年に比べて大きな変更はないが、採択数が 22% まで下がっている。
- ・国別投稿状況としては、国内 29%、海外 71% となっている。
- ・Review を未だ執筆されていない海外の先生に対して、催促状を出す予定である。

##### 2. 発行状況

清野編集委員長より、28 巻 4 号～5 号の発行状況、掲載論文数、ならびに掲載論文の国内外の内訳について報告があった。

##### 3. 2009 年度インパクト・ファクター値について

- ・2009 年度発表のインパクト・ファクター値は、1.894 と発表された。

主な要因は、掲載論文数が増えたことにより、計算式の分母が増えたことと思われる。

<Endocrinology & Metabolism 分野 IF 順位>

76 位/105 誌 (昨年度 67 位/93 誌)

本年度より、5 年インパクト・ファクターは 1.910 であった。

<Endocrinology & Metabolism 分野 5 年 IF 順位>

74 位/105 誌

- ・論文タイプ別の平均引用回数では、Review Article と Special Report が他と比べて多い。

##### 4. オンラインジャーナルダウンロードおよび引用について

月間のフルテキストダウンロード件数は約 6,000 件であった。また、フルテキストダウンロード数の第 1 位は BRONJ 論文で、699 件ダウンロードされた。

##### 5. JBMM プロモーションについて

海外で学会を開催する時は、JBMM の宣伝を積極的に行っていく旨、了承した。

##### 6. その他

- ・JBMM の査読に関して、査読を依頼する際の参考にするため、査読の先生を専門分野ごとに分類したリストを作成してはどうかとの提案があり、了承した。

#### <第 2 回ステロイド性骨粗鬆症管理と治療ガイドライン改訂委員会>

日 時: 2010 年 3 月 20 日(土) 13 時 00 分～15 時 00 分

場 所: 千里ライフサイエンスセンター 6 階 602 号室

名和田委員長より、開会の挨拶があった。続いて、本委員会の議事次第について説明があり、ACR が 8 年ぶりに発表予定の GIOP のガイドラインの抜粋版について紹介があった。

#### 議 題 :

##### 1. わが国のステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のエビデンス

###### 1) ステロイド骨粗鬆症の一次予防(15 分)

岡田委員より、若年女性に多い疾患である膠原病症例で、ステロイド薬初回大量投与を行う際の、ビスフォスフォネートをステロイド投与開始と同時に投与しステロイド骨粗鬆症に対する一次予防効果について説明があった。検討した結果、ビタミン D とビスフォスフォネートの併用療法は、大量ステロイド投与における骨粗鬆化制御に有用であり、特に初期の急速な骨吸収過剰・骨量低下を防ぐことにより骨折予防効果を有する可能性があり、ステロイド骨粗鬆症の早期治療に有効である旨、報告があった。

また、全国 10 施設で行っている、新規にステロイド投与される膠原病患者の骨代謝マーカーによるステロイド骨粗鬆症の早期診断の確立と早期薬剤介入による治療意義に関する研究およびステロイド投与における早期薬物療法の有用性の研究について報告があった。

###### 2) GOJAS 2 次予防

複数の危険因子の組み合わせによるスコア方式(15 分)

鈴木 康夫教授(東海大学医学部血液・腫瘍・リウマチ内科)

鈴木委員より、2 次予防の症例(ステロイド投与して 3 カ月以上経過した患者)100 名のスコア化の検証について説明があった。2 次予防の中で 9 例新たに骨折が発生した。アレンドロネートを投与した患者さんでは 2 名の骨折があった。大きな要因として、年齢があり、65 歳と 75 歳では骨折発生率に変化がある。

実用的なスコアとしては、骨密度、閉経、年齢、既存骨折の有無等があげられる。

治療の有無の条件も考慮した上で、ビスフォスフォネート製剤の必要な患者を抽出する方法として、スコア方式が有用ではないかとの意見があった。

宗圓理事より、来年度の骨粗鬆症の治療ガイドラインで

FRAX が導入されていることが決定されている旨報告があり、国内で FRAX をそのまま適応させることに対する注意点や、高齢でないとデータがない等の問題点について協議した。

###### 3) ステロイド性骨粗鬆症のラロキシフェン治療(15 分)

高柳 涼一教授(九州大学大学院医学研究院病態制御内科)

高柳委員より、ビスフォスフォネートを使用できない患者について、6 施設で依頼してラロキシフェン投与を行った結果、閉経後の方でビスフォスフォネートを使用できない方には有

用ではないかとの結論を得た旨、報告があった。

中山委員より、関節リウマチ患者を対象にした骨折抑制試験について報告があった。ビスフォスフォネート製剤治療歴のない患者でステロイドの内服を受けている患者 100 名についての解析を行ったところ、ラロキシフェンとビスフォスフォネート製剤については、新規骨折をほぼ同等に抑制する結果となった旨、報告があった。

## 2. わが国のステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドラインの検証(15分)

田中 郁子講師(藤田保健衛生大学医学部臨床検査部)

### 1) 危険因子、既骨折、年齢、閉経、高齢、プレドニゾロン>5mg、骨密度<80%の再検討

田中委員より、ACR が今年中にガイドラインを出すことと、骨粗鬆症学会が来年の春頃にガイドラインを決定することを考慮して、本ガイドラインの活用について検討した旨の報告があった。

2004 年度ガイドライン発表時に、65 歳以上は、他の条件をなしに直ちに治療するという原案を提示した件について、ガイドラインの脚注にて「高齢者は骨折の危険性が高くなる」という文言を記載することで、高齢者にも対応する形をとった経緯の説明があった。

続いてリウマチ患者 165 名において本ガイドラインの検証を行った結果、主に下記の報告があった。

- ・本ガイドラインは、リウマチ性疾患患者の GIOP において骨折率が高い群を良好に治療導入していると考えられる。
- ・危険因子の既骨折について再検討したところ、既存骨折は非常に高い骨折リスクであることが判った。
- ・年齢については、ある数字から急に骨折が増える結果にはならないため、Cut-off 値を決める方法もあるが、原案では 65 歳以上としている。
- ・閉経については、リスクよりも治療薬の選択としての因子として残すことが妥当ではないか。
- ・FRAX について、治療誘導はよいが、骨折では、過小評価傾向をしたほうがよいとのコメントを入れてはどうか。
- ・プレドニゾロン>5mg、骨密度<80%については、5mg 以上で新規骨折発生率が高くなる結果となった。予防に踏み込むガイドラインにするには、Cut-off 値を高くすればよいと、本ガイドラインの方向性をまず決めてから設定するのはどうか。

### 2) 治療薬ビタミン K2 の再検討

治療薬ビタミン K2 は、ステロイドの骨折抑制に有効であり、骨折治癒の促進の可能性が示唆されている。

なお、田中委員より、海外で使用されている骨芽細胞を活性化させる Teriparatide について紹介があり、重症のステロイド性骨粗鬆症の治療薬として、今後国内でも公開される可能性がある旨、説明があった。改訂版については、Teriparatide の認可状況および海外の状況をふまえながら、内容を確定していくのはどうかとの提案があった。また、本ガイドラインについて、海外のガイドラインと大きくかけ離れていない旨、説明があった。ガイドライン改訂版の策定については、何を指すのかという哲学により基準とするものが異なる旨説明があっ

た。例えば、骨折予防を目的とする場合は Cut-off 値の設定が高くなり、治療効率を優先する場合は、経過観察に注意しなければならない事などである。

なお、全体の結論として下記の報告があった。

- ・現ガイドラインを早急に改訂しないとしても使用に堪えないものではない。
- ・治療群においてなお骨折率の低下を望むためには新たな薬剤の導入、あるいは全く新規の Logical なガイドライン概念の導入が有効である。
- ・現ガイドラインは海外の者と比べて齟齬がないため、今後も海外に向けて提言を出していくのがよい。

以上の報告を受け、ガイドライン改訂について協議した結果、主に以下の意見があった。

- ・ビタミン K2 について、エビデンスのレベルを聞かれるとコホート調査のため、低いという問題もある。海外でのエビデンスがない。
- ・ステロイドに造詣のない医師へもわかりやすいガイドラインにすることを考慮して、スコア化という方法もある。しかし、スコアは項目が多いと忙しい先生は使いにくい面もあるため、スコアは最大 3 項目で Contribution の弱い項目は捨てることとし、それ以上の数になる場合はフローチャートにしてはどうか。
- ・内科が専門でない医師にもより利用されやすい内容にしてはどうか。その上で、新しい Teriparatide 等の新薬をどのように入れ込むかを検討する。
- ・本ガイドラインについてフローチャート式を取ったことで評価は高い。委員会の広報・宣伝も改善してはどうか。
- ・本ガイドラインの使い勝手はよい。しかし、ステロイドをよく使用する医師からすると、治療を推奨するために強弱をつけるためにスコア化も意義がある。
- ・目的としては、ステロイド投与量を最小限にすることであるため、現ガイドラインは目的にかなっている。
- ・重要である一次予防のエビデンスは「予防投与」という文言を入れると、保険診療上、意義深い。改訂版では倫理委員会を通して進めてはどうか。

### 3) 顎骨壊死のコメント(15分)

宗圓 聰教授(近畿大学医学部奈良病院整形外科)

宗圓委員より、顎骨壊死について主に以下の報告があった。

- ・ビスフォスフォネート顎骨壊死のメカニズム中で、感染が大きく影響することは間違いない。
- ・アレンドロネート、リセドロネートを 3 カ月休薬すると、骨折が 1.2 倍になるというハイリスクがあり、歯科側の投与を控えたという見解と、控えたときの骨折リスクの増加の問題をどのように調整するか点について、まもなく JBMM 誌に出るポジション・ペーパーで発表される予定である。
- ・最終的には薬の副作用を考慮し、メリット・デメリットをそれぞれ検討する必要がある。
- ・個人的見解としては、骨折リスクを避けるため、投与を控えてはならないこととし、投与後に口腔衛生士や口腔外科の治療が必要と考える。なぜなら投与後 18 カ月以内は発症が無いためである。

4) 小児ステロイド骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン(案)  
(15分)

田中 弘之部長(済生会岡山総合病院小児科)

田中委員より、小児ステロイド骨粗鬆症の管理と治療のガイドラインについて主に以下の報告があった。

- ・小児はエビデンスが比較的に少ないため、研究は無かったが、2007年に1件データが出た。
- ・子供の骨折リスクの基準は骨密度 $-2.3$ という値をとっていた。
- ・ステロイド投与について、骨密度のデッドスコアの部分で小児についても言及できればよいのではないかと、という観点での研究を参照すると、骨折の基準値は $-1.8$ となっている。
- ・問題は疾患の特異性であり、ステロイドが大量に入ってくる病気が小児の場合ネフローゼくらいしかない。
- ・二つ目の問題は Appropriate Reference が小児の場合存在しないことである。
- ・安全係数を $-1.8$ よりもう少し高い値( $-1.5$ )をYAM値80%の代わりに適応してはどうか。
- ・日本人の Cut-off 値を求めるデータが取れば、よりはっきりするのではないかと。

名和田委員長より、今回の委員会の発表を踏まえて、鈴木副委員長が改訂(案)を作成してはどうかとの提案があり、了承した。また、ACRのガイドラインが予定では7~8月頃に発表されるため、その結果をふまえて、年内に次回委員会を開催することとした。

また、改訂版では、Referenceを添付してはどうかとの意見があり、各委員が必要とする文献リストを事務局へ集め、とりまとめることとした。

## &lt;第3回椎体骨折評価委員会&gt;

日時: 2010年3月6日(土) 13時00分~15時00分

場所: アーバンネット大手町 21F オリオンルーム

議題:

報告事項

- 1) 第2回委員会議事録が報告された。

審議事項

- 1) 骨形態計測学会 遠藤先生より委員会に提案

MRが椎体骨折の診断に重要な位置をしめるようになり、従来の骨折判定で骨折でないと判定されたものが骨折として認識されるようになってきている。また、既存骨折がどのように起きているか、骨折の自然経過をみる縦断的な研究が提案された。すでにそのような縦断研究あるのか、できるのかを検討することになった。

- 2) 新鮮骨折の診断

新鮮骨折のMR所見が症例で提示された。T1強調像で低輝度、T2強調像で高輝度変化をするが、症例によってはMR変化は認めるがXP像で変形をきたさない骨折もあることが報告された。そのような症例はMRでないと骨折判定ができないことになるが、評価基準ではあくまでも一般的診断ツールであるXP判定を基本とし、臨床症状やMRを使用することで診断精

度を向上させたり、骨折の新旧判定などができることを付記するのが好ましい。

- 3) 椎体骨折の鑑別

MRでできる椎体骨折の鑑別診断が配布資料により示された。

- 4) SQ法による評価について

椎体計測は臨床の現場で行われないことが圧倒的に多く、SQ法の方が実用的であることから評価基準に入れることになった。ただし、SQ法の導入にあたってその再現性を高める啓蒙的な活動をおこなわなければならない。次回までにSQ法の利点と欠点をまとめて報告していただくことになった。

- 5) 他学会との整合性

新しい椎体骨折評価基準は従来の椎体の形態的变化ばかりでなく新鮮な骨折の治療に役立つ評価基準でなければならない。そのためには日本整形外科学会をはじめ日本脊椎脊髄病学会、日本放射線医学会から委員会に出席していただき、コンセンサスを得ていくことになった。森委員長から3学会の理事長あてに要請状を送り、委員会への参加をお願いすることになった。

- 6) 今後の方針

今回の委員会には新委員を加えて新評価基準の原案の作成に着手する。

できれば3学会からの新委員を加えて、新しい評価基準の原案を審議することになった。

- 7) 日本整形外科学会教育講演について

## &lt;第4回椎体骨折評価委員会&gt;

日時: 2010年7月23日 10時00~12時00

場所: 京王プラザホテル 南館7階 かつら

議題:

報告事項

- 1) 第3回委員会議事録の報告

- 2) 新任委員

今回より日本整形外科学会(徳橋泰明委員)、日本脊椎脊髄病学会(戸川大輔委員)、日本医学放射線学会(伊東昌子委員:日本骨粗鬆症学会併任)が本委員会に参加することになった。日本整形外科学会と日本脊椎脊髄病学会の委員の旅費は日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、骨形態計測学会が折半して支給されることが報告された。新任委員が紹介され、これまでの委員会の経緯が説明された。

審議事項

- 1) 委員会の目標

本委員では①現行の椎体評価基準の改訂と、②椎体骨折の基礎から臨床までを網羅する出版物を作成すること、を目標とすることになった。

- 2) MRIの有用性:

新鮮椎体骨折の評価は基本的にはXPで行うが、XPで診断できない新鮮骨折や新旧の判定が必要となる多発性椎体骨折、他疾患との鑑別診断を要する場合にはMRI診断が重要になる。新鮮骨折のMRI所見としてT1強調像で低輝度、STIR像で高輝度を呈することで異論はなかった。さらに椎体骨折の治療の観点から神経麻痺のある症例や偽関節の診断

に MRI が有用であることが確認された。

### 3) 半定量(SQ)法による椎体骨折評価

伊東委員から Genant らが提唱する SQ 法の説明があった。SQ 法は骨粗鬆症薬などの効果を判定する臨床試験や疫学調査で汎用されている。従来の椎体計測(QM)法より感度、特異度が高いという報告もある。ただしこのような判定は限られた人数の熟練した研究者により行われることが多い。椎体骨折評価はこれ以外に日常診療でも頻繁に行われているが、臨床現場では QM 法が行われないことが圧倒的多く、現行の評価基準は日常診療で十分に機能するとはいえない。そこで椎体骨折評価法として SQ 法を加えることが望ましいということになった。ただし、SQ 法の導入にあたっては一般臨床家が行った場合の再現性を検証したり、SQ 法評価の再現性を高めるための啓蒙的な活動が必要になるとの見解に至った。SQ 法の再現性を検証するにはシリーズで撮影された脊椎 XP フィルムが必要になる。A-TOP 研究会にフィルム貸し出しが可能かどうか打診することになった。

### 4) XP による椎体骨折評価の問題点

XP による椎体評価の問題点が指摘された。

- 1) 脊柱変形がある例やフィルムの端に近い椎体では X 線が斜方向から入射され読影が困難になる場合があり、椎体の形態をより正確にとらえるには CT が有用なことがある。
- 2) 椎体陥凹が椎体中央部より前方に偏位しているような扁平椎では QM 法で椎体骨折評価ができないことがある。
- 3) 椎体終板の嚢胞状の陥凹が椎体骨折に合併することがある。この病態が教科書に記載されている Schmorl 結節と同一のものかどうかは明確なエビデンスはない。今後の研究課題である。

### 5) 今後の活動方針

- 1) 椎体骨折評価基準(1996年版)の改訂  
草案を作成し次回の委員会で検討することになった。委員会案がまとまったら関連6学会でシンポジウムなどを企画して学会員の意見を聞き、最終的に各学会の理事会で承認していただき公表することになった。
- 2) 椎体骨折に関する出版  
一般臨床家の椎体骨折評価への理解を深める目的で椎体骨折に関する基礎から椎体骨折評価方法、技術的解説、トレーニングができる実践的な出版物を発行する。ライフサイエンス社の寺崎さんより出版に向けて簡単な説明があった。次回の委員会で出版までの行程や資金についての説明を聞くことになった。

## <第5回椎体骨折評価委員会>

日時: 2010年10月22日 9時30分~10時30分

場所: 大阪国際会議場 701 会議室

報告事項

第1回委員会議事録の報告

報告事項

### 1) 脊椎骨折判定基準改訂の検討

- ①用語について

現行の判定基準では「圧迫骨折」が多用されているが、「脊椎骨折(vertebral fracture)」あるいは「椎体骨折(vertebral body fracture)」とする方が病態を適確に表現し、英訳としても適している。脊椎脊髄病学会、日本整形外科学会の用語集に照らして「脊椎骨折」にするか「椎体骨折」にするか次回の委員会で決定し、改定評価基準では用語を統一することになった。

#### ②改訂評価基準では脊椎骨折の分類

改訂評価基準では脊椎骨折の分類(形態骨折、臨床骨折、既存骨折、新規骨折、新鮮骨折)を定義することになった。

#### ③従来の定量的診断法(QM法)について

中野委員から正常椎体の P、C、A 高のデータが提示され、現行の計測法と矛盾しないことが確認され、現行通りとすることになった。

#### ④半定量的診断法(SQ法)について

対照表(1993年 Genant)と照らして椎体変形をグレード0(なし)からグレード3に分類することになった。註釈で正常椎体と比較でいてグレード1では椎体高が20%以上25%未満、グレード2では25%以上40%未満、グレード3では40%以上の減少が目安になることを明記することになった。

#### ⑤MRIの有用性について

「臨床的に新鮮な骨折例では X 線写真上明らかな脊椎骨折を認めなくても MRI で診断することができる」という註釈を入れることになった。どのような MR 所見を骨折とするかは徳橋、戸川、中野、加藤委員で検討することになった。次回の委員会で椎体骨折評価基準改定(案)を提示することになった。

### 2) QM法とSQ法の一致率の検証

「SQ法による脊椎骨折評価の検証研究案」が提示された。ATOP研究会に J-2 の脊椎 X 線写真データの貸し出しを依頼することになった。ATOP研究会から提供される DICOM 化した 40 症例の胸椎、腰椎 X 線像を、1) 中野、萩野、伊東委員が expert として QM、SQ 法で骨折を評価する、2) 6 学会から選出された各 5 名が SQ 法で骨折を評価することが決まった。

加藤委員から脊椎外科医による QM 法で骨折を評価する案が出た。加藤委員他 2 名の脊椎外科指導医も QM、SQ 法で骨折を評価することになった。その評価を行う脊椎外科医の人は加藤委員が行うことになった。各学会の委員が SQ 法で骨折を評価する学会員を選定することになった。委員長は SQ 法骨折評価の依頼文およびその手順を作成することになった。

評価は ATOP 研究会からデータが届き次第行うことになった。

### 3) パブリックコメントの収集

来年あるいは再来年のなるべく早期に各学会で椎体骨折の評価に関するシンポジウムを企画し、各学会の意見を収集し改訂版に反映させることになった。

日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本骨形態計測学会、日本骨粗鬆症学会では来年のシンポジウム企画が決定している。日本骨代謝学会、日本医学放射線学会でのシンポジウム企画を学会選出委員に依頼した。

### 4) 椎体骨折に関する出版計画

ライフサイエンス寺崎さんから出版スケジュールが提示された。

執筆開始から出版まで1.5年を要する。徳橋委員から執筆開始はパブリックコメントを収集した上で開始するのが好ましいとの意見が出た。

今回の委員会で編集の分担案を示し、執筆者選定を開始することになった。

5) 脊椎骨折判定基準改訂版の公表時期

改訂版の公表は各学会でのシンポジウムで学会員の意見を収集し、SQ法による脊椎骨折評価の検証研究結果がでてから行うことになった。

■ 公募情報 ■

< ノボ ノルディスク成長・発達研究賞 2011 募集要項 >

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社では、「ノボ ノルディスク成長・発達研究賞 2011」を下記要領にて募集いたしております。

概要:

本研究賞は、小児期の成長・発達の内分泌学に関する研究、または成長ホルモンーインスリン様成長因子系に関連する研究を対象とし、当該領域の臨床研究の発展に寄与すると認められる研究に対して助成金を授与し、その研究支援を行います。

■ 募集研究課題:

- ① 小児期の成長・発達の内分泌学に関する研究
- ② 成長ホルモンーインスリン様成長因子系に関連する研究

■ 研究助成金総額: 1000万円(100万円×10研究課題)

■ 助成対象期間: 原則として1年間

■ 応募締切: 2011年3月5日(土)(当日消印有効)

■ 応募書類提出先:

ノボ ノルディスク成長・発達研究賞事務局

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

マーケティング本部情報企画部

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル

TEL:03-6266-1388 FAX:03-6266-1802

E-MAIL:jphc\_gh@novonordisk.com

今後の学会予定

● 第30回日本骨代謝学会

会期: 2012年7月19日(木)~21日(土)

会場: 京王プラザホテル

会長: 加藤 茂明(東京大学分子細胞生物学研究所  
核内情報学分野)

● IBMS 2013 (第31回日本骨代謝学会)

2nd Joint Meeting of the International Bone and Mineral Society and the Japanese society for Bone and Mineral Research

会期: 2013年5月28日(火)~6月1日(土)

会場: 神戸国際会議場、ポートピアホテル

Chair: 野田 政樹

(東京医科歯科大学難治疾患研究所分子薬理学)

Japan Day 会長: 吉川 秀樹

(大阪大学大学院医学系研究科器管制御外科学)

関連学会の大会開催予定

● 第5回 Bone Research Seminar

会期: 2011年2月18日(金)~19日(土)

会場: 東京コンファレンスセンター 品川

(〒108-0075 東京都港区港南 1-9-36)

ホームページ: <http://www.conet-cap.jp/bresearch/index.html>

● IOF 13th Worldwide Conference of Osteoporosis Patient Societies

会期: 2011年3月18日(金)~20日(日)

会場: Valencia(Spain)

ホームページ:

<http://www.iofbonehealth.org/about-iof/iof-programs/iof-family/wcc.html>

● The 38th European Symposium on Calcified Tissues

会期: 2011年5月7日(土)~11日(水)

会場: Athens(Greece)

E-mail: [ects-ibms2011@mci-group.com](mailto:ects-ibms2011@mci-group.com)

ホームページ: <http://www.ects-ibms2011.org/default.htm>

● 第31回日本骨形態計測学会

会期: 2011年5月20日(金)~22日(日)

会場: 長良川国際会議場(岐阜市)

会長: 江尻 貞一(朝日大学歯学部口腔構造機能発育学  
講座口腔解剖学分野)

ホームページ: <http://www.procomu.jp/jsbm2011/>

● 第23回日本運動器リハビリテーション学会

会期: 2011年7月8日(金)~9日(土)

会場: 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター(新潟市)

会長: 遠藤 直人(新潟大学大学院医歯学総合研究科  
整形外科学分野)

ホームページ: <http://shinsen.biz/jsmr23/>

● 第44回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会

会期: 2011年7月14日(木)~15日(金)

会場: 国立京都国際会館(京都市)

会長: 戸口田 淳也(京都大学再生医学科学研究所  
組織再生応用分野)

テーマ: 骨・軟部腫瘍学の未来を切り拓く Surgeon-Scientist をめざして

ホームページ:

<http://www.congre.co.jp/joa-tumor2011/index.html>

● 8th meeting of Bone Biology Forum

会期: 2011年8月19日(金)~20日(土)

会場: 富士教育研究所

(〒410-1105 静岡県裾野市下和田 656)

ホームページ: <http://www.bone-biology.com/top.html>

●The ASBMR (The American Society for Bone and Mineral Research) 2010 Annual Meeting

会 期: 2011年9月16日(金)~20日(火)  
会 場: San Diego Convention Center (San Diego)  
演題登録締切: 2011年4月13日(水)  
ホームページ:  
<http://www.asbmr.org/Meetings/AnnualMeeting.aspx>

●第14回癌と骨病変研究会

会 期: 2011年11月18日(金)  
会 場: 千代田放送会館  
ホームページ: <http://www.sec-information.net/jscbd/top.html>

●第5回 骨・軟骨フロンティア(BCF) -The 5th Meeting of Bone and Cartilage Frontier-

会 期: 2011年11月19日(土)13:00~18:30  
会 場: ベルサール八重洲 2階 RoomA, B, C(予定)  
(東京都中央区八重洲1-3-7  
八重洲ファーストフィナンシャルビル 2F(東京駅八重洲北口徒歩3分)  
代表世話人: 米田俊之(大阪大学大学院歯学研究科  
口腔分子免疫制御学講座生化学教室)  
ホームページ: [http://www.bellesalle.co.jp/bs\\_yaesu/](http://www.bellesalle.co.jp/bs_yaesu/)  
プログラム: 2011年夏以降にご案内予定  
共 催: 骨・軟骨フロンティア/旭化成ファーマ株式会社

## IBMS への入会のご案内

The International Bone and Mineral Society (IBMS)は世界 64 カ国に会員約 2,500 名を有する世界最大規模の骨代謝分野の国際学会です。IBMS は日本骨代謝学会、European Calcified Tissue Society (ECTS) および The American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR)と2年に1度 Joint Meeting を開催し、各地域における研究の発展に尽力しています。

また、2013 年には、日本骨代謝学会との Joint Meeting が開催される予定です。今後もより一層 IBMS との関係をより深めつつ、相互の会員の利益になるため会員の皆様には、ぜひ IBMS へ入会くださいますよう、ご案内申し上げます。

詳しい情報ならびにお申込につきましては、

IBMS ホームページ

<http://www.ibmsonline.org/> membership のページより、  
ご覧ください。